

2025年度(第2回)

学校関係者評価委員会評価報告書
(2025年度自己点検・自己評価)



令和8年3月31日

学校法人 朝日医療学園
朝日医療専門学校広島校

2025年度 朝日医療専門学校広島校

第2回 学校関係者評価委員会

(委員)

氏名	所属	任期	種別
土方 政幸	公益社団法人広島県柔道整復師会 理事 (うじな東巴堂鍼灸整骨院 院長)	2025年4月1日 ～2026年3月31日	企業・業界団体
河部 眞利	外国人技能実習機構 広島事務所	2025年4月1日 ～2026年3月31日	高等学校校長経験者
中村 崇弘	己斐なかむら鍼灸接骨院 院長	2025年4月1日 ～2026年3月31日	本校卒業生
小林 幸子	株式会社 仁保製作所	2025年4月1日 ～2026年3月31日	学生の保護者

評価項目別結果 1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切

(1)教育理念・目標(教育理念、目標、育人人材像)			自己評価点	学校関係者評価点
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価	3	4
<p>教育理念や教育目標等については、学生便覧へ記載、校内掲示(1Fロビー、教職員室)及びホームページ上へ掲示し、教職員・学生および保護者にむけて周知継続を図っている。現時点では大きな問題はないと考える。</p>	<p>教職員を中心に学校全体に向けて周知を継続する。 学年別ガイダンスで感じた課題点を精査し、教職員全体の意識を高め改善点を模索する。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はなし。</p>		
特記事項				
なし				
(2)学校運営(運営方針・運営組織・情報管理)			自己評価点	学校関係者評価点
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価	3	4
<p>学校運営に関しては、本年度より施行の改正「私立学校法」の精神に則り、学園の評議員会・理事会のメンバーに新たに外部から人材を登用し、より一層のガバナンス強化に取り組んでいる。また、今年度より文部科学省から「職業実践専門課程」に認定されたことを踏まえ、より透明性の高い学校運営とその情報の公開に努めなければならない。</p>	<p>新メンバーで構成する評議員会および理事会で承認された経営方針や事業計画を、広島校に落とし込み、各部門毎に目標を設定し、また目標達成のための方策を立案し、達成に向けて取り組んでいく。また、常に学生ファーストを意識し、教職員・学生からの意見も取り入れながらフレキシブルな学校運営を行っていく。</p>	<p>私立学校法の改正による評議員会が非常に有意義な体制となり、活発なものになったことを評価する。</p>		
特記事項				
教務部、学生部、事務部で情報を共有化し、学生やお客様のロケーションを正確に伺い丁寧な実務の遂行を周知継続。				
(3)教育活動(目標設定、カリキュラム編成、成績評価、単位認定、資格取得の指導体制)			自己評価点	学校関係者評価点
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価	3	4
<p>年間を通して補習・チューター制度を整え、継続的に指導を行っている。また、月1回、第3学年を対象に模擬試験を両学科とも実施した。第2学年に対しても模擬試験を実施したり、問題演習を繰り返す等、国家試験への見通しを持たせ、意識付けを行っている。 成績不良者の学習への取り組みせ方に課題がある。</p>	<p>補習を全学年に広げていく取り組みが徐々にではあるが進んでいる。学生の状況に対応しながら、次年度もさらに推進していく。</p>	<p>学年毎の取り組み方については非常に有益な方策であることは理解するが、学科を超えた体制の構築を検討してみてはいかだろうか。</p>		
特記事項				
次年度においては、学科を超えた体制の構築について検討し実施可能な方策を模索する必要がある。				

(4)学修成果(資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
就職希望者に対する就職率は100%を維持している。 退学率は5%未満を維持している。 国家試験合格率は両学科とも全国平均を上回る水準で推移しており、今後さらに向上させることを目指す。	実質合格率を向上させるためにも、退学率の抑制および基礎学力の底上げが必要である。 特に成績不良による退学をさらに抑制していく必要があることから、丁寧な学生指導および補習の実施を継続していく。	今後も退学率抑制に取り組んでいた きたい。 実質合格率は大切なことであるとは思 うが、学生の基礎学力の底上げを図 りつつ、現状の合格率の維持を続け てください。		
特記事項				
受験生だけでなく、1、2年時からの計画的な学力向上への施策を考えながら合格率維持を常に意識した指導を続けていく。				
(5)学生支援(就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
学生生活上で起こる問題、悩み等について、クラス担任を中心に相談できる体制をとり、定期的 に面談を行っている。健康面に不安を抱える学 生がいることから、柔軟に対応することで指導・ 支援を継続している。 就職・進学支援については、担任・キャリア担 当者が中心となり、第3学年の学生全員の進路 希望の聞き取りと面談を行い、就職先の斡旋を 行っている。 また、特別講義を行うに際し、卒業生を講師と して招聘することで、資格取得後の将来像をイ メージさせる取り組みを行った。	学生指導・学習支援については、継 続することが重要である。学生の多様 化が進んでいるが、教職員間で情報共 有を行いながら適切に対応していくこ とで、学生が最大限、学習に臨める環 境づくりをさらに進めていく。	1年次(若年層)において、学生が夢 を見れる(感じる)時間を享受できる特 別講義を実施して欲しい。1年次の退 学者を抑制する取り組みに繋がるの ではないだろうか。		
特記事項				
特別講義として、卒業生を招いて資格取得後の将来像をイメージさせる取り組みを継続していく。				
(6)教育環境(施設・設備等、学外実習、防災・安全等)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
建物竣工から18年が経過し、経年劣化が顕著 である。特に換気設備や冷暖房設備の修繕予算 を計上しつつ、計画的な更新が必要である。安 全・防災面の面においても老朽化対策につい ては、予算を慎重に計上し、適宜計画的に進める 必要がある。 学外臨床実習を実施する時期を春秋に実施 し、学生自身の抱える将来像へ向けた不安解 消、日常生活も含めた学生のモチベーション維 持に対するカリキュラム対策を実践している。	ハード面における教育環境の改善及 び修繕においては、再開発事業の進 捗状況を見据え適宜対応してい きたい。 ソフト面における教育環境の改善に ついては、出欠状況や成績を閲覧する Web機能の改善点をブラッシュアップ し学生・保護者目線での運用と修正に 備える必要がある。	現状、問題点や指摘する点はなし。 移転計画の内容については、未だ不 透明な部分も多いが、引き続き年度予 算に沿った適切な設備投資(改修)を 実行していただきたい。		
特記事項				
経年劣化による修繕工事については、安全・防災面の観点から予算を削るのではなく、適宜計画的に実施する。				
(7)学生の募集と受け入れ(学生募集活動、入学選考、学納金)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
本年度も19歳人口の減少、転出超過全国ワ スト1位・都道府県別大学進学率上位・就職求人 数の増加といった専門学校にとってはマイナス 要因が多数あり、一昨年・昨年度と同様に高校 生の学生募集を巡る環境は極めて厳しい状況で あった。しかし、一昨年・昨年度の反省から広報 活動(校内ガイダンス中心)を更に強化したことで オープンキャンパスへの高校生の動員は一昨年 ・昨年度より増加となり、きめ細かな対応に よって出願数を増やすことができた。また、『特 待生制度(スカラシップ・チャレンジ)』も一昨年 ・昨年度より広く認知されたことでエントリー数も大幅 に増加することができた。また、社会人出願者も 個別説明会・個別面談等の実施や教育訓練給 付金等の影響もあって一定数の出願があり、高 校生・社会人・内部進学者の合計で100名の入 学予定者を確保することができた。ただ、次年度 も学生募集の状況は引き続き厳しいことは容易 に想像でき、本年度のように入学予定者を確保 できるとは限らないので教職員が一丸となり危機 感を持って広報・募集活動を推し進めていく必要 がある。	本年度と同様に高校内ガイダンス・会 場ガイダンスへの積極参加やスポーツ チームとの交流・高校部活動への積極 関与に取り組むことでより多くの高校 生を中心とした入学候補者との接触・ 対話を本年度以上に行うことで鍼灸 師・柔道整復師・朝日医療広島の知名 度・認知度の向上に今以上に注力し、 入学希望&入学検討者の母集団形成 に取り組む必要がある。また、当然で はあるが教職員すべてが在校生・卒業 生・業界関係者・オープンキャンパスや 個別相談等で来校する入学候補者で ある高校生とその保護者・社会人と その関係者及び家族等に対して、今 まで以上に丁寧かつ誠実な対応を心が ける必要がある。	入学者数の増加については取り組み が正しいものであったと評価する。 高校生の進路決定については、高校 入学時から指導しているのが現状で ある。各種の進路説明会に参加し高校1 年次から進路の相談会を積極的にす ることは必然である。 在学生からSNS発信を積極的に お願いして欲しい。ただし、SNSの記 事作成については学校側の台本作りが 必要である(トラブルを未然に防ぐた め)。		
特記事項				
次年度においても学生募集の状況は引き続き厳しいことは容易に想像できるため、教職員が一丸となり危機感を持って広報・募集活動を推し進めていく必要がある。				

(8)財務(財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
財務基盤については、公認会計士の監査を受け、評議員会および理事会にて審議を実施し承認を得ているが、学園全体では総学生数減少により増収増益といえる状況ではない。しかしながら、本校においては、次年度の入学者数は目標とする100名を確保できたことにより、総学生数は本年度より増加する見込みである。引き続き退学者数を抑制し財務基盤の柱である学納金収入の減少を抑える必要がある。	本校の事業収支予算については、各部署で詳細に科目予算を立案し、対前年比を意識した予算計画を計上し、無駄な支出を抑えた予算執行を実施する。具体的には、経年劣化による修繕対策費用を計上したうえで、対前年予算比は全体で4.1%の上昇に留める。また、2027年度の初期在籍人数を総学生数263名の確保を目標として、2026年度においても退学者数の抑制および新入生数の確保を図り、財務基盤の改善を果たしたい。	コストカット等に努められ、財務状況に関して適切な事業遂行に努めている点を評価する。 引き続き手厚いサポートで退学者数の抑制に繋げていただきたい。		
特記事項				
2026年度においては、引き続き退学者数の抑制と新入生数の確保を図り、2027年度の初期在籍人数を総学生数263名の確保を目標とする。				
(9)法令等の順守(個人情報保護、学校評価)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
学校教育法施行規則の専修学校設置基準に則り、適正な運営を実施している。また、各学科における課題解決に当たっては、各々の養成施設指定規則との整合性を図り、コンプライアンスを徹底している。	引き続き教職員の適正人員の確保と配置に気を配りつつ、イレギュラーな対応に迫られることのないよう準備と対策を実施しておく必要がある(休職対応など)。	現状、問題点や指摘する点はなし。		
特記事項				
さまざまな問題への対処がある中でも法令や養成施設指定規則との整合性を図り、コンプライアンスを徹底するように教職員一人ひとりが意識する必要がある。				
(10)社会貢献・地域貢献(社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
地域住民を対象とした100歳体操は、現在100名を超える高齢者の皆様に参加頂き、広島市内最大規模の教室となった。その他、近隣のコミュニティから様々な要請を頂戴し、可能な限り参加させていただくことで地域貢献に努めている。また、2025年11月には、学校法人として初めて広島市から「ひろしま型地域貢献企業」に認定された。課題としては、各イベントごとで人員を確保することには毎回苦心している。このような活動はあくまでもボランティアであり、強制的に参加するものではないので教職員・学生のボランティア精神の醸成が大きな課題となっている。	ボランティア活動は参加して初めてその必要性を理解できるものであり、ボランティア部を中心としたこれまでの活動に加えて、教職員・学生に対してポスターの掲示やクラスルームへの投稿等により全校で情報を共有し、参加を促していきたい。	学校と行政が連携を図りつつ、主体性を持った学生による地域貢献活動は益々その活動が盛んになっており素晴らしい活動であると最大評価する。 100歳体操や地域の祭りのサポートなど教職員の業務の負担になる部分も多かろうとは思いますが、学生とともに継続して活動を行っていただきたい。 課題を挙げるならば、近年は働き方改革の改善もあるため、特定の分野などの枠組みにとらわれず、複数の部門にまたがって連携して行う横断的な活動を検討して欲しい。		
特記事項				
横断的な活動を目標とするならば、縦割りの弊害をなくし、新たな価値を生み出すための枠組みを検討する。				

総合的評価結果

特に大きな問題はなく健全な学校運営が図られている。